



▼幸福なツバメ▼

校長 小田 恵

雨上がりのツバメのさえずりが耳に心地よい頃となりました。私はツバメが大好きです。ツバメ好きの理由は、生来の生き物好きということもありますが、一つには小学校一年生の時、担任の先生が、「ツバメは大切な鳥です。ツバメが巣を作る家は幸せが訪れるのですよ。」と話して下さったことが大きいでしょう。ツバメを我が家の軒先に勧誘するにはどうすればよいか真剣に考えたことを想い出します。もう一つの理由としては、オスカー・ワイルドの「幸福な王子」という子ども向けの作品を読んだことが挙げられます。ワイルドの作品は、戯曲『サロメ』、小説『ドリアン・グレイの肖像』など、人間の暗黒の部分を描いた怖いイメージがありますが、この「幸福の王子」はとても美しいお話で、子供向け、というより、むしろ大人に読んでもらいたい作品です。今読み返してみると、単に美しいだけでなく、人間の愚かさ、社会の矛盾なども織り込まれていて、非常に考えさせられます。

美貌に恵まれながら若くして亡くなった「幸福」な王子が、生前の姿そのままに金銀宝石で飾られ、裕福な町の象徴である像となって町を眺めると、これまで知らなかった世の中を知ることになる、というそれほど奇抜ではない設定ですが、ツバメとの交流が心に迫ります。小学生の私には、王子や町の人に尽くす健気なツバメの姿が心に焼き付いたのでしょう。何度読んでも、「幸福な王子」より、ツバメの方に焦点をあててしまいます。そして、このツバメも幸福なんだな、もしかしたら、ツバメの方が王子より幸福かなと思うのです。

物語の終わり、寒さで弱ったツバメは最後の力を振り絞って、王子の像にキスし、息絶えます。金銀宝石もなくなり、輝きを失った王子の像は倒され、溶かされ、ゴミとしてうち捨てられますが、王子の鉛でできた心臓だけは溶けずにそのままの形を留めていましたよ。その傍にはツバメの死骸も横たわっていました。

そして、次のようにお話は閉じられます。

神さまが天使たちの一人に「町の中で最も貴いものを二つ持ってきなさい」とおっしゃいました。その天使は、神さまのところに鉛の心臓と死んだ鳥を持ってきました。神さまは「よく選んできた」とおっしゃいました。「天国の庭園でこの小さな鳥は永遠に歌い、黄金の都でこの幸福の王子は私を賛美するだろう」

「幸福の王子が神を賛美する」というフレーズから多くのメッセージが読み取れます。次号のNewsletterでは、このフレーズについて記したいと思います。それまでに「幸福の王子」をぜひご一読下さい。ツバメのさえずりをBGMに。

さて、今年度初めての考査が終了いたしました。数字に表れる考査の結果についてだけでなく、生徒一人一人が神から授かった「賜物(タレント)」を引き出していくために、ご家庭と学校はしっかり連携し、協力していかなければなりません。今回の面談が実りあるものになりますよう、お祈りしています。